

プロペラについての注意

- プロペラは航走中高速回転をするため、出航前にプロペラの傷、変形等を確認して異常のある場合は交換してください。
- 航走中の不測の事故に備えてスペアのプロペラを用意してください。
スペアのプロペラを携帯していないときにプロペラを破損した場合には低速で静かに帰り、プロペラを交換してください。
- エンジンの回転数はプロペラのサイズやボートの状態によって変化します。フルスロットル時の回転範囲外で使用した場合は、エンジンに悪影響を及ぼすとともに重大な故障の原因となります。
正しく選定されたプロペラは、力強い加速、トップスピード、優れた経済性、快適性が得られ、エンジンの寿命を延ばすことが出来ます。
プロペラの選定はお買いあげ販売店にご相談ください。

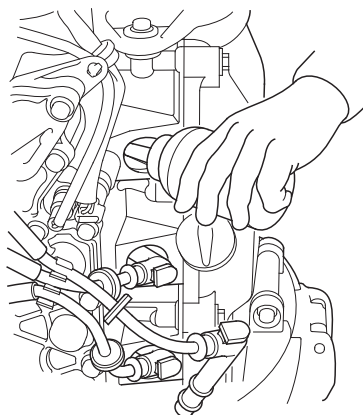
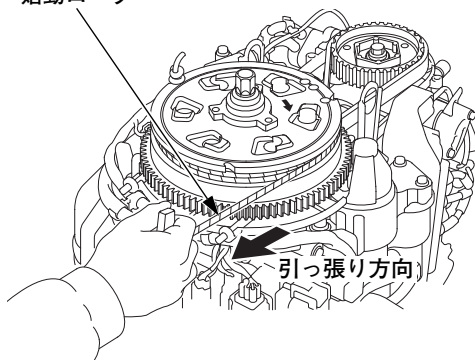
船外機が落水したとき

水没した船外機は、なるべく早く分解・整備を行ってください。

分解・整備を行うまでの処置として、つぎのことを行ってください。

1. 水没したら、直ちに引き上げ、塩分、泥、水草等を真水できれいに洗い落とします。
2. エンジンオイルとベーパーセパレーター内のガソリンを抜きます。
3. 非常停止スイッチクリップを外し、点火プラグを外します。
4. ACG カバーを外し（71 頁参照）、始動ロープでフライホイールを数回まわし、シリンダー内の水を完全に抜きます。
5. 点火プラグ穴からエンジンオイル 5 - 10 mL を入れ、数回始動ロープを引いてシリンダー内にオイルをまわしておきます。
6. できるだけ早くお買いあげ販売店で分解・整備を行ってください。

始動ロープ



エンジンがかからないとき

(故障のときは 135、136 頁を参照してください)

- シフトレバーまたはコントロールレバーが “中立” になっていますか？
- 非常停止スイッチクリップが正しく取付けられていますか？
- ガソリンはありますか？
- 燃料タンクの通気ノブが “開” になっていますか？
- 燃料ホースが折れ曲がっていませんか？
- ヒューズは切れていませんか？
- 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？

保 管 の し か た

船外機を長持ちさせるために、来たるべきシーズンにそなえ、保管前にお買いあげ販売店で整備をお受けになることをおすすめします。

燃料ホースジョイントをエンジン側と燃料タンク側から外します。

30 日以上使用しないときは、ベーパーセパレーター内の燃料を抜いてください。

- ・ 燃料を抜かないとガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

次回使用時は、新鮮なガソリンを使用してください。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大ケガや死亡事故を引き起こすことがあります。

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ・ 換気のよい場所で行ってください。
- ・ ガソリンをこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。布を閉じられた部屋に保管しておくと、ガソリンが気化し引火するおそれがあります。

1. エンジンカバーを取外します。
2. 燃料フィルター（低圧側）を点検します。（点検方法は 119 頁参照）
内部に水やゴミ等がたまっていたら、清掃または交換してください。
（清掃・交換方法は 120、121 頁参照）。
3. ベーパーセパレーターからガソリンを抜きます。（抜きかたは 132 頁参照）
4. 抜いたガソリンに水やゴミ等が混ざっていないことを確認します。
5. 2. および 4. で水やゴミ等が確認された場合は、以下の操作を行ってください。
 - (1) ドレンスクリュウが締付いてあることを確認します。
 - (2) 本機を水平にし、新鮮なガソリンが入ったガソリンタンクを接続します。
 - (3) プライマーバルブで新鮮なガソリンをベーパーセパレーターに送ります。

⚠ 注意

プライマーバルブの操作は、必ずドレンスクリュウが締まっている状態で行ってください。ドレンスクリュウがゆるんでいるとガソリンが漏れてきます。

(4) エンジンを始動し、アイドリング状態で3分間運転します。

取扱いのポイント

エンジンをかけるときは、必ず通常使用状態（プロペラが水中にある状態）で行ってください。絶対に水無しでは始動しないでください。本機を破損します。

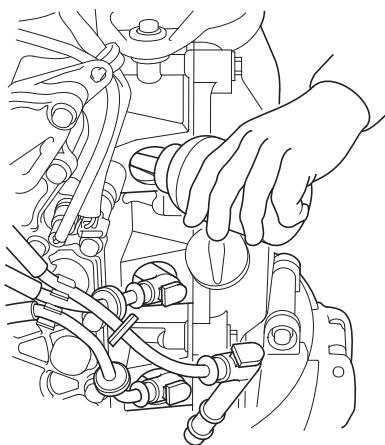
(5) ベーパーセパレーターからガソリンを抜きます。（抜きかたは132頁参照）

(6) 抜いたガソリンに水やゴミ等が混ざっていないことを確認します。

(7) 抜いたガソリンから水やゴミ等が確認された場合は、水やゴミ等がなくなるまで、(1) から繰り返します。

〈エンジン内部の保護〉

1. 点火プラグキャップと点火プラグを取外します。（115頁参照）
2. 点火プラグ取付け穴からエンジンオイル5 - 10 mL をオイルで注入します。
3. 点火プラグを外した状態で点火プラグ取付け穴を布で覆います。
4. エンジンスイッチを3秒ほど“START”（始動）の位置にして、エンジンオイルをシリンダー内壁に付着させます。
5. 布を外し、点火プラグと点火プラグキャップを取付けます。



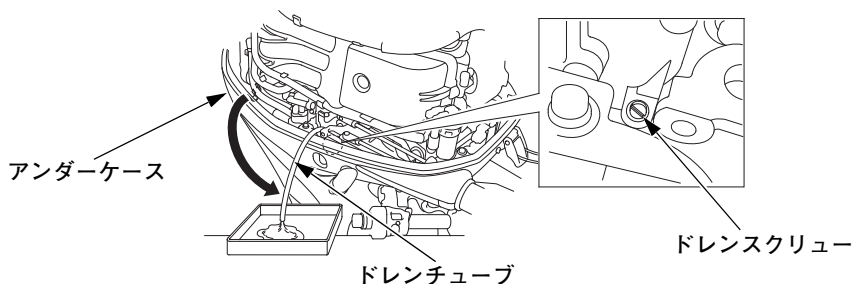
〈ガソリンの抜きかた〉

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大ケガや死亡事故を引き起こすことがあります。

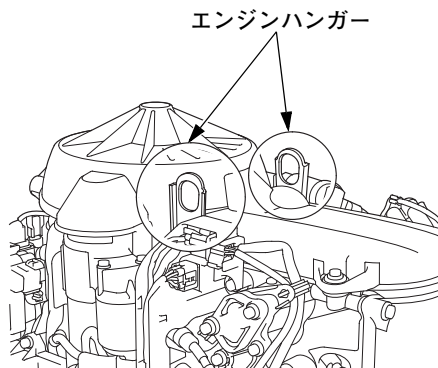
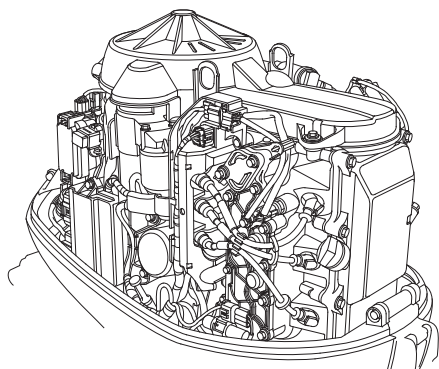
- ・火気を近づけないでください。
- ・換気のよい場所で行ってください。
- ・ガソリンをこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。布を閉じられた部屋に保管しておく、ガソリンが気化し引火するおそれがあります。

1. エンジンカバーを取外します。
2. 高圧燃料配管とクランプされているドレンチューブを外し、端部をアンダーケースの外に出します。
3. ベーパーセパレーターのドレンスクリューをゆるめます。
4. 船外機をチルトアップします。
5. ドレンチューブからガソリンが流れ出したらチルトダウンして、船外機を水平状態に戻します。
ガソリンは適切な容器に受けます。
6. ガソリンが出終わったらドレンスクリューを締付け、ドレンチューブを高圧燃料配管とクランプします。

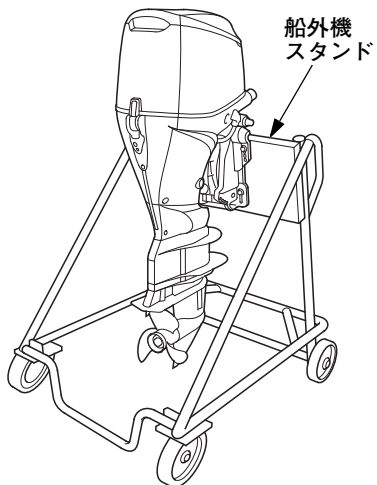
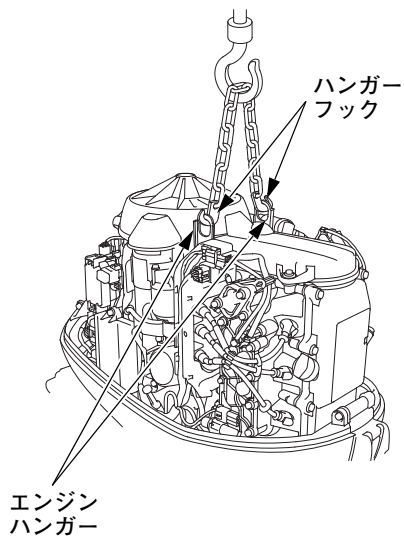


〈立てた状態での保管〉

1. エンジンカバーを取外します。

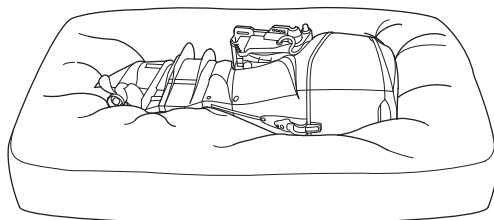


2. ハンガーフックを2か所あるエンジンハンガーに取付け、船外機を船外機スタンドに寄せボルトとナットで確実に固定します。



〈横にした状態での保管〉

やむを得ず横にした状態で保管する場合は、ウレタンフォームや毛布などを船外機の下に敷いて損傷を受けないようにします。(必ず下図の向きにしてください)
横にした状態で保管するときは、エンジンオイルを抜きます。(112、113 頁参照)



右舷側を下にする

取扱いのポイント

- ・ 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・ 直射日光をさけ、風通しのよい、湿気の少ない場所に保管します。

保管後（使用前）の整備

長期保管後、再び使用する前に次の点検・整備を行ってください。

1. 点火プラグを点検してください。
汚損が著しいものは交換してください。(115、116 頁参照)
2. エンジンオイルレベルが適正であることを確認してください。(47 頁参照)
3. 給油箇所にはグリースを塗布してください。(117、118 頁参照)
4. 船外機の外装部をきれいに掃除してください。(104 頁参照)
5. 良好な状態のバッテリーを接続してください。(44 頁参照)

故 障 の と き は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検をしてもらうことが船外機を長持ちさせる秘けつです。

(1) エンジンがかからない

燃料

現 象	原 因	解 決 方 法
燃料系統の不良	燃料タンクにガソリンが不足している	ガソリンを補給する 使用燃料：52 頁参照
	通気ノブが開いていない	ノブを開く：58 頁参照
	燃料ホースジョイントの接続不良	接続不良を直す：58, 59 頁参照
	燃料タンクフィルターが詰まっている	清掃：122 頁参照
	燃料フィルターが詰まっている	交換：120, 121 頁参照
	燃料ホースの折れ曲がり	折れ曲がりをなおす
	燃料ポンプの作動不良	販売店にお持ちください
	劣化ガソリンを使用している	新鮮なガソリンと交換する

電気

現 象	原 因	解 決 方 法
セルフスターターは回るがエンジンが始動しない	点火プラグの汚れ	清掃:115, 116 頁参照
	火花すき間の不良	調整:115, 116 頁参照
	点火プラグの破損	交換:115, 116 頁参照
	クランク角センサーの不良	販売店にお持ちください
	ECU の不良	
	イグニッションコイルの不良	
	ワイヤーハーネスの不良	
	非常停止スイッチコードの電気リーク	
	非常停止スイッチの戻り不良	
	点火プラグキャップの取付け不良	点火プラグキャップを確実に取付ける: 115, 116 頁参照
	非常停止スイッチクリップの取付け不良	クリップを確実に取付ける: 65 頁参照
セルフスターターが回らない	ACG コイルの不良	販売店にお持ちください
	ワイヤーハーネスの不良	
	シフトレバーまたはコントロールレバーが“中立”になっていない	レバーを“中立”にする: 66 頁参照
	ヒューズが切れている	ヒューズを交換する: 123 頁参照

(2) 始動してもすぐ止まる。航走中時々エンジンが止まる。

現 象	原 因	解 決 方 法
燃料タンクにガソリンがない	ガソリンの量が不足している（ガス欠）	ガソリンを規定量まで補給する 使用燃料：52 頁参照
燃料タンクにガソリンはある	ガソリンに水が混入している	販売店にお持ちください
	燃料タンクの通気ノブが開いていない	ノブを開く：58 頁参照
	燃料タンクフィルターが詰まっている	清掃：122 頁参照
	燃料フィルターが詰まっている	交換：120, 121 頁参照
	アイドリングの低過ぎ	販売店にお持ちください
	燃料ポンプの作動不良	
	燃料ホース・ジョイント・コネクター・プライマーバルブよりエアが入っている	販売店にお持ちください

(3) 警告装置が作動する

現 象	原 因	解 決 方 法
オーバーヒート警告装置が作動する ・オーバーヒート警告表示灯が点灯する ・ブザーが連続音で鳴る ・エンジン回転数が低下し最終的には停止する ・スロットルを開けてもエンジン回転数が上昇しない	吸水口の詰まり	吸水口を清掃する：101 頁参照
	点火プラグの品番のちがい	正しい点火プラグを取付ける：116 頁参照
	ウォーターポンプの不良	販売店にご相談ください
	サーモスタットの詰まり	
	サーモスタットの作動不良	
	冷却系水路の詰まり	
油圧警告装置が作動する ・オイル油圧表示灯が消灯する ・ブザーが連続音で鳴る ・エンジン回転数が低下する ・スロットルを開けてもエンジン回転数が上昇しない	エンジンオイルの不足	エンジンオイルを規定量まで補給する：49 頁参照
	推奨オイル以外のオイルを使用している	推奨オイルと交換する：112 頁参照
PGM-FI 警告装置が作動する ・PGM-FI 警告表示灯が点灯する ・ブザーが断続長音で鳴る	PGM-FI システムの異常	販売店にご相談ください

--

現 象	原 因	解 決 方 法
ACG 警告装置が作動する ・ ACG 警告表示灯が点灯する ・ ブザーが断続長音で鳴る	充電ヒューズの切れ	ヒューズを交換する： 123, 124 頁参照
	ACG の不良 バッテリー電圧が過電圧及び低電圧となった	バッテリーを点検する販売店にご相談ください

主	要	諸	元
---	---	---	---

項	目	仕	様	諸	元
名	称	Honda 船外機 BF60A			
型	式	BBFJ			
タ	イ	プ	XHTN	XRTN	LRTN
定	格	出	力	44.1kW (60 PS)	
推	奨	回	転	範	囲
		5,000 ~ 6,000 rpm			
エ	ン	ジ	ン	形	式
		4 ストローク OHC 直列 3 気筒			
総	排	気	量	998 cm ³	
始	動	方	式	セルフスターター	
点	火	方	式	トランジスター式バッテリー点火	
潤	滑	方	式	トロコイドポンプによる強制圧送方式	
オ	イ	ル	グ	レ	ード
		エンジン：API 分類 SG、SH または SJ 級相当の SAE 10W-30 エンジンオイル ギヤケース：API 分類 GL-4、SAE 分類 90 番ハイポイドギヤオイル			
潤	滑	油	量	エンジン：2.6 L（オイルフィルター交換時：2.7 L） ギヤケース：0.43 L	
冷	却	方	式	水冷（サーモスタット付）容積式ポンプ	
排	気	方	式	水中排気（プロペラボス排気）	
点	火	プ	ラ	グ	
		LMAR6C-9 (NGK)			
燃	料	装	置	ダイヤフラム式燃料ポンプ	
使	用	燃	料	無鉛ガソリン	
燃	料	供	給	方	式
		電子制御燃料噴射方式 (Programmed Fuel Injection)			
チ	ルト	ア	ッ	プ	角
		60°			
		(トランサム角度 12° 時)			
ト	リ	ム	角	度	
		- 4° ~ 16°			
		(トランサム角度 12° 時)			
旋	回	角	度	50°（両舵）	
操	縦	装	置	ティラーハンドル	リモートコントロール

--

タ イ プ	XHTN	XRTN	LRTN
全 長	851 mm	777 mm	
全 幅	417 mm		
全 高	1,524 mm		1,397 mm
ト ラ ン サ ム 高 さ (トランサム角度 12° 時)	648 mm		521 mm
D C (直 流) 出 力	12V - 22A		
回 転 方 向	右回転 (船尾より見て)		
ク ラ ッ チ 形 式	ドッグ式 (前進-中立-後進)		
乾 燥 質 量 (重 量) ※	121 kg	116 kg	110 kg

※ プロペラ (別売部品) の重量を含み、バッテリーケーブルを含まない。
この主要諸元は予告なく変更することがあります。

--	--

項 目	仕 様	諸 元
名 称	Honda 船外機 BFP60A	
型 式	BBFJ	
タ イ プ	LRTN	XRTN
定 格 出 力	44.1kW (60 PS)	
推 奨 回 転 範 囲	5,000 ~ 6,000 rpm	
エ ン ジ ン 形 式	4 ストローク OHC 直列 3 気筒	
総 排 気 量	998 cm ³	
始 動 方 式	セルフスターター	
点 火 方 式	トランジスター式バッテリー点火	
潤 滑 方 式	トロコイドポンプによる強制圧送方式	
オ イ ル グ レード	エンジン：API 分類 SG、SH または SJ 級相当の SAE 10W-30 エンジンオイル ギヤケース：API 分類 GL-4、SAE 分類 90 番ハイポイドギヤオイル	
潤 滑 油 量	エンジン：2.6 L（オイルフィルター交換時：2.7 L） ギヤケース：0.95 L	
冷 却 方 式	水冷（サーモスタット付）容積式ポンプ	
排 気 方 式	水中排気（プロペラボス排気）	
点 火 プ ラ グ	LMAR6C-9 (NGK)	
燃 料 装 置	ダイヤフラム式燃料ポンプ	
使 用 燃 料	無鉛ガソリン	
燃 料 供 給 方 式	電子制御燃料噴射方式 (Programmed Fuel Injection)	
チルトアップ角度 (トランサム角度 12° 時)	60°	
トリム角度 (トランサム角度 12° 時)	- 4° ~ 16°	
旋 回 角 度	50°（両舵）	
操 縦 装 置	リモートコントロール	

--

タ イ プ	LRTN	XRTN
全 長	792 mm	
全 幅	417 mm	
全 高	1,453 mm	1,580 mm
ト ラ ン サ ム 高 さ (トランサム角度 12° 時)	531 mm	658 mm
D C (直 流) 出 力	12V - 22A	
回 転 方 向	右回転 (船尾より見て)	
ク ラ ッ チ 形 式	ドッグ式 (前進-中立-後進)	
乾 燥 質 量 (重 量) ※	119 kg	125 kg

※ プロペラ (別売部品) の重量を含み、バッテリーケーブルを含まない。
この主要諸元は予告なく変更することがあります。

点 検 整 備 記 録 表

定 期 点 検	実施年月日	実施工場	実施者氏名	臨時整備 ※
初回（20 時間目）点検	・ ・			
6 か月点検	・ ・			
12 か月（1 年）点検	・ ・			
18 か月点検	・ ・			
24 か月（2 年）点検	・ ・			
30 か月点検	・ ・			
36 か月（3 年）点検 （法定中間検査）	・ ・			
42 か月点検	・ ・			
48 か月（4 年）点検	・ ・			
54 か月点検	・ ・			
60 か月（5 年）点検	・ ・			
66 か月点検	・ ・			
72 か月（6 年）点検 （法定定期検査）	・ ・			

※ 臨時整備を行ったときは、空欄に主たる整備内容を付記します。

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル イイフレアイオ
0120 - 112010

受付時間 9 : 00 ~ 12 : 00 13 : 00 ~ 17 : 00

〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 - 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- (1) 製品名、タイプ名
- (2) ご購入年月日
- (3) 販売店名

HONDA

30ZZ3626
00X30-ZZ3-6260



000.0000.00
©2023 本田技研工業株式会社
Printed in Japan